

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4110311331		
法人名	医療法人社団如水会		
事業所名	グループホーム「かがやきの里」とどろき		
所在地	鳥栖市轟木町1574		
自己評価作成日	令和4年1月20日	評価結果市町村受理日	令和4年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和4年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人の運営であり、隣接した立地で、入居者の急変時には迅速に対応できる。人工透析の必要な方も受け入れている。介護員等の経管栄養、喀痰吸引の施設登録を行い医療度の高い方も入居を受け入れている。在総診で医師・看護師の訪問があり連携をとり、発熱などでも迅速に対応できる。「看取り」を行い最期まで安心して暮らしていけるようにしている。コロナ禍で、リモートを活用した面会を可能にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人である医療機関と隣り合わせの敷地内に付むホームは、保育園と隣接しており子供のにぎやかな声がよく聞こえる。コロナ禍前は芋ほり等、園児との交流が行われていた。看護師が複数常駐し、医療的なケアの必要性が高い高齢者にも対応できる体制が整っている。「生きることは食べること」との意識の下、いつまでも食事を楽しむ美味しく摂ることができるように、口腔ケアにも熱心に取り組んでいる。家族へ週に1回入居者の状態を報告したり、月1回のホーム便りを郵送するなど、家族との信頼関係を築く工夫も惜しみなく行っている。職員の定着率も高く、経験豊富な職員が多いため、入居者や家族の信頼も厚い。看取りにも対応しており、人生の最期までゆったりと暮らすことができるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印				項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			
	1F	2F				1F	2F		
56	○	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない		63	○	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない	
57	○	○	1. 毎日ある 2. 数日に1程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない		64	○	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1程度 3. たまに 4. ほとんどない	
58	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		65	○	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない	
59	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		66	○	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
60	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		67	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
61	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		68	○	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない	
62	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない						

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	1		2		外部評価	
			実践状況		実践状況		実践状況	
I. 理念に基づく運営								
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「すべての人に健康という幸せを提供し続ける」をカンファレンスで唱和している。ただし、今年度はコロナで集団になることを避けるため毎月開催していない。	法人理念「すべての人に健康という幸せを提供し続ける」をカンファレンスで唱和している。ただし、今年度はコロナで集団になることを避けるため毎月開催していない。	理念は玄関と室内に掲示している。申し送りノートに課題を書き、職員全員で課題解決をし、理念の実践に努めている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナにより行事の中止で交流なし	コロナにより行事の中止で交流なし	コロナ禍で地域やホーム共に交流は中止しており、散歩する際に知人などからの声掛けがある。法人として地域清掃に参加し繋がりを継続している。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	6月、地域包括支援センター主催の認知症高齢者の声掛け訓練にケアマネージャーがアドバイザーとして参加した。	6月、地域包括支援センター主催の認知症高齢者の声掛け訓練にケアマネージャーがアドバイザーとして参加した。				
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催している。感染拡大の月は中止した。	2ヶ月に一度開催している。感染拡大の月は中止した。	運営推進会議に家族の参加者が多い。区長に声掛けするが参加得られない。月1回ホーム便り家族に郵送しており、会議内容も載せている。感染対策で1回開催中止したが、書面作成していない。	対面での開催が難しいときは、書面作成し、意見も得るようにし共通認識を行う等、どのような状況でも開催できるような、取り組みを期待したい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一度は書類提出を行っている	月に一度は書類提出を行っている	毎月入居者の状況報告をしている。市担当者から相談を受けることもある。日頃より協力関係は築かれている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ。フロア出入口を24時間行っている。	フロア出入口の施錠は時間帯により行っている。ベッド柵4点使用者がおり解除にむけてのカンファレンスを行っている。	身体拘束について全職員に資料配布し、意識を高めている。虐待の芽を理解し、モニタリングをおこない、記録している。同意書もある。身体拘束の解除に向けて試行錯誤しているが、事故のリスクがあり解除できない。	身体拘束しないケアへの努力を続け、解除できることに期待したい。身体拘束適正化委員会開催の記録整備し、充実した取り組みに期待したい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に12月職員を参加させ、内容を勉強会で伝達予定であったが、勉強会中止指示あり、文章で伝達。2月にはリモートの勉強会に参加予定。	研修に12月職員を参加させ、内容を勉強会で伝達予定であったが、勉強会中止指示あり、文章で伝達。2月にはリモートの勉強会に参加予定。				

自己	外部	項目	1	2	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の実施が出来ていない	勉強会の実施が出来ていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	長時間の面談ができないため、簡素な説明になった。	長時間の面談ができないため、簡素な説明になった。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議をできるだけ開催し、現状の説明等おこなった。	運営会議をできるだけ開催し、現状の説明等おこなった。	ホームから家族へ週1回入居者の状態報告や、月1回ホーム便りに運営推進会議の内容など郵送し、意見や要望、苦情など聞き取っており、運営に活かすようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスで意見交換したり、業務中にも不便と感ずることなどを積極的に発言あり、対応した。	カンファレンスで意見交換したり、業務中にも不便と感ずることなどを積極的に発言あり、対応した。	職員からの意見は出来るだけ運営に反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の個人面談を行っている。	年2回の個人面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内のネット研修分は参加できている。	院内のネット研修分は参加できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため、他事業等への行く機会ほとんどない	コロナ禍のため、他事業等への行く機会ほとんどない		

自己	外部	項目	1	2	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は本人の言動を観察し、今必要なものや必要な援助は何かを探り、ご家族への連絡も行っている。	入居当初は本人の言動を観察し、今必要なものや必要な援助は何かを探り、ご家族への連絡も行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設入居に当たり不安や悲しみを感じ取りながら、電話で利用者の状態報告を行って安心していただくようにした。	施設入居に当たり不安や悲しみを感じ取りながら、電話で利用者の状態報告を行って安心していただくようにした。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居以前の情報だけでなく、現在にADLにあった介護に努めている。	入居以前の情報だけでなく、現在にADLにあった介護に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行いながら、他利用者ともコミュニケーションもとっている。	家事を一緒に行いながら、他利用者ともコミュニケーションもとっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限がはじまり、ご家族へ電話してほしいなどの訴えにこたえている。	面会制限がはじまり、ご家族へ電話してほしいなどの訴えにこたえている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	安易な外出、面会ができないために交流ができない状態。	安易な外出、面会ができないために交流ができない状態。	コロナ禍で対面はできないが、タブレット機器を活用したり、葉書や電話、窓越しでの面会など柔軟な対応をおこなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者にも好き嫌いがあるため、食事のテーブル配置なども考えトラブルにならないようにしている。	利用者にも好き嫌いがあるため、食事のテーブル配置なども考えトラブルにならないようにしている。		

自己	外部	項目			外部評価	
			1 実践状況	2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時は死亡退去のため、お通夜に参加をし挨拶を行っている。	契約終了時は死亡退去のため、お通夜に参加をし挨拶を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン変更は定期的におこなっている。	ケアプラン変更は定期的におこなっている。	言葉だけでなく表情や態度などから、本人の思いや意向を把握し、全職員で共有している。主治医や家族の協力を得て、実現できるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に趣味や嗜好品などを訪ねて準備したりする。	ご家族に趣味や嗜好品などを訪ねて準備したりする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	去年出来ていたことが、今年も引き続きできるように援助している。また、介助がひつようになった部分の把握に努め過剰な介護にならないようにしている。	去年出来ていたことが、今年も引き続きできるように援助している。また、介助がひつようになった部分の把握に努め過剰な介護にならないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーを中心に観察や介助のポイントを把握し、スタッフの意見も反映している。	ケアマネジャーを中心に観察や介助のポイントを把握し、スタッフの意見も反映している。	介護計画は6ヶ月ごとに見直しているが、本人の状況に応じて柔軟に作成している。介護職員も介護計画を理解し、基づいたケアを実践している。本人・家族の要望取り入れた介護計画である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	専門用語ばかりではわかりにくい記録になるため、ありのままに記録するように指導している。	専門用語ばかりではわかりにくい記録になるため、ありのままに記録するように指導している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日の体調や気分に応じてレクレーションしたり、おやつの手作りなどしている。	その日の体調や気分に応じてレクレーションしたり、おやつの手作りなどしている。		

自己	外部	項目	外部評価			
			1 実践状況	2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は外向きのことが出来ていない。	今年度は外向きのことが出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在総診と、かかりつけ医の往診に対応している。	在総診と、かかりつけ医の往診に対応している。	かかりつけ医は自由に選択できる。他科受診は家族に協力を得ている。24時間オンコール体制であり、緊急時にも対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは小さな変化をすぐに共有し、看護師やケアマネージャーに報告し対応している。	スタッフは小さな変化をすぐに共有し、看護師やケアマネージャーに報告し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人への入院では連絡が取れている。また、退院も速やかに対応している。	同法人への入院では連絡が取れている。また、退院も速やかに対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居当時から急変の可能性の説明等行い家族間の意見を聞くようにしている。また、終末期には医師から説明を行えるように家族に連絡をとっている。	入居当時から急変の可能性の説明等行い家族間の意見を聞くようにしている。また、終末期には医師から説明を行えるように家族に連絡をとっている。	入居時に終末期について説明し、同意書もとっている。看取りの経験も多く、マニュアル作成している。研修も実施。本人の状態に応じ、主治医より説明。本人や家族の希望に添ってチームで支援をおこなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法を年に1回、消防署を呼び研修を行っている。	心肺蘇生法を年に1回、消防署を呼び研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施し、来年度にはBCPの作成を行う。	年2回の避難訓練の実施し、来年度にはBCPの作成を行う。	年2回避難訓練実施している。訓練に夜勤職員の参加予定している。備蓄や日頃よりコンセント周りの掃除など、火災防止意識している。母体法人の支援協力も得られる。	

自己	外部	項目	1	2	外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや、入浴時または部屋の開閉等に注意している	トイレや、入浴時または部屋の開閉等に注意している	接遇研修にも参加し、入居者の尊厳を損なわない態度や言葉などに注意している。記録物など個人情報、事務所に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で表現できずにうろろうろしたりする方などはおちつくまで見守りをし自由にしている。	言葉で表現できずにうろろうろしたりする方などはおちつくまで見守りをし自由にしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まったレクリエーションがあるのではないため、その日の天気や、体調などに応じて一日の過ごし方をきめる。	決まったレクリエーションがあるのではないため、その日の天気や、体調などに応じて一日の過ごし方をきめる。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節がわからなくなっているため、衣替えなど職員が行い衣類の選択を前もっておこなう。	季節がわからなくなっているため、衣替えなど職員が行い衣類の選択を前もっておこなう。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備でもやしのひげとりなど手伝ってもらっている。	食事の準備でもやしのひげとりなど手伝ってもらっている。	入居者が好きなものを食べれるように、口腔ケアに力を入れており、誕生日には希望する食事ができる。柿むきやフキノトウなど季節を感じてもらっている。入居者の状態に応じた食事提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分制限のある方があるので気をつけている。その他の方には水分摂取を促している。	水分制限のある方があるので気をつけている。その他の方には水分摂取を促している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で十分にできない方にはそばについて声掛けしている。時にはガーゼで拭き取りしている。	自分で十分にできない方にはそばについて声掛けしている。時にはガーゼで拭き取りしている。			

自己	外部	項目	1		2		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄を促している	できるだけトイレでの排泄を促している	排泄チェックし、入居者の排泄パターン把握し日中はトイレでの排泄を実施している。カテーテル留置して退院したが、排泄の支援をする事で介助から見守り、そして自立した入居者もいる。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ミネラル水を導入し、自然な排便を促している。必要に応じて下剤を使用している。	ミネラル水を導入し、自然な排便を促している。必要に応じて下剤を使用している。				
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を嫌がる方もいるため、無理強いほしないがスムーズに入れるように朝から意識付けする声かけしている。	入浴を嫌がる方もいるため、無理強いほしないがスムーズに入れるように朝から意識付けする声かけしている。	週に冬期は2回、夏期は3回の入浴を実施している。本人の状態に応じて、リフト浴、シャワー浴、清拭、足浴など柔軟に対応している。浴室は冷暖房機完備。入浴後はローションを塗布し肌の保湿を行っている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるため眠剤を使用せずに行っている。	できるため眠剤を使用せずに行っている。				
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	臨時薬など飲み忘れがないようにしている。	臨時薬など飲み忘れがないようにしている。				
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いが好きな方がいるので、役割を分担してもらっている。	家事手伝いが好きな方がいるので、役割を分担してもらっている。				
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出はご家族の支援をいただいている。	外出はご家族の支援をいただいている。	冠婚葬祭への参加は家族が支援している。コロナ禍のため外出制約中だが、近所への散歩時には知人から声掛けがある。			

自己	外部	項目	外部評価			
			1 実践状況	2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームではお金を持たせていない。	ホームではお金を持たせていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば応じている。	電話の希望があれば応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時折、ソファ、テレビなどの配置を変えて、利用者が落ち着けるように工夫している。	時折、ソファ、テレビなどの配置を変えて、利用者が落ち着けるように工夫している。	手すりなど頻繁に触れる箇所はこまめに消毒し、換気は日に3回行っている。空気清浄機や加湿器設置し、温湿度計でチェックする。壁には季節ごとに手作りの作品が掲示。暖かく快適に過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前のソファに集っている。	テレビの前のソファに集っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身体的問題があればベッドの位置等を変化させている。	身体的問題があればベッドの位置等を変化させている。	ホームからはベッドを提供し、他は馴染みの物を持ち込むことができる。本人と家族が話し合い布団や椅子など持ち込み、入居者の個性溢れた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の方などが自由にフロアを滑走できるように椅子など邪魔にならないようにしている。	車椅子の方などが自由にフロアを滑走できるように椅子など邪魔にならないようにしている。		